

2. 事業の目的と概要

Donation of Two Mobile Libraries (MLs) to South Africa

South Africa, important trade partner of Japan in Africa, has been trying to improve its education system, and managed to establish about 14,000 primary schools all over the country absorbing the most of children to schools.

However 85% of the schools do not have school library, which is serious set-back for the children to obtain Read/Write capability in English which is the language of teaching.

Sapesi has been working with South African national Department of Basic Education since 2007, to donate second-hand MLs from Japan to let provincial Departments of Education operate MLs to send the books to the schools.

Sapesi also assists them for the smooth operation of MLs, such as vehicle maintenances and even the English books collection from overseas which exceeds 190,000 books till now.

Currently 50 MLs are in operation at all of nine provinces, sending books regularly to over 900 schools.

This ML initiative is highly appreciated and occupies as one of corner stones for South African school library operation.

Western Cape Department of Education is facing the need of the replacement of one of their 6MLs which covers Elgin area schools but is becoming very old (over 30years).

Through our experience, we have noticed that the children who attend the early child education (ECD) before primary schools, show better learning achievement at primary schools.

As a trial we like to donate a ML to a NGO (Heron Bridge Training Center, Johannesburg Diepsloot slum), which trains the teachers for nursery schools, and assist the nursery schools in toys and books supply.

Utilization of a ML for nursery schools is first time in South Africa, which will be a very exciting challenge.

(1) 上位目標	南アフリカの小学生の識字力および読解力の向上を図り、初等教育及びECD (Early Children Development: 幼児教育) の質的向上、教育環境の改善に資すること。
(2) 事業の必要性(背景)	<p>(ア) 図書を利用した英語教育の必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南アフリカ(南ア)ではアパルトヘイト時代に育った教師達は図書に触れた経験が少なく図書の有用性や重要性についての認識が低い ため、基礎教育省・各州教育庁の図書予算が低いことの大きな要因となっている。そのため、図書室のある小中学校の割合は全体(約24,000校)の23%(内14%が図書あり、9%が図書なし)、教室に数冊の図書がある学校数は、全体の35%となっている。すなわち、65%の学校(約15,000校)は、「図書がない」状況にある。移動図書館車は、こうした図書のない学校の内、868校(6%)を巡回して図書を届けている。(注2) ・南アフリカの公用語は英語、アフリカーンス語と現地語9の合計11言語があるが、英語が全国共通の言語である。英語は2年生から学び、4年生以降は全ての授業は英語で行われるが、英語習得率は低い水準にある。 ・基礎教育省の6年生の英語テスト結果で、50点以上の割合が2012年24%、2013年41%、2014年42%と改善が見られるものの、依然として低い水準にあり、更なる改善が必要となっている。(注1) <p>(イ)「持続可能な開発目標(SDGs)」との関連性</p> <p>4年生以降は全ての授業は英語で行われており、英語の識字力・読解力は、全ての教科の適切かつ効果的な学習効果に必須である。そ</p>

	<p>の為、英語教育の強化を目指す本事業は、SDGsの目標4.の4.1、および、4.2 に該当する。</p> <p>(ウ)「外務省の国別開発協力方針(南アフリカ)」との関連性 (1) 人材基盤の強化(2) 社会的弱者の経済・社会参加支援、において、「初等教育の基盤強化」として該当する。</p> <p>(エ)「TICADVIにおける我が国の取組み」の[人材育成]の項目について、広義的に、その人材育成の基礎となる「初等教育の人材育成」に寄与する。</p> <p>(オ) 事業地における事業の必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西ケープ州。農村地域などの遠隔地であり、また、生徒数が50~70人以下の小規模校が多く、図書の整備が特に遅れている。そして、僻地に居住する貧困のカラード(混血)の子どもが多く、本事業の必要性が高い。 ・NPO・Heron Bridge(ハウテン州)。ヨハネスブルグ北部最大スラム地区の託児所を巡回する。就業の機会を求め、地方より多くの人々が都市に出てきてスラム街を形成し、両親は昼間働きに出るので、スラム地区では低料金の託児所が急増している。幼児への図書の提供が殆どなく、本事業の必要性が高い。 ・アパートヘイト時代に教育を受けなかった多くの親達は、子どもを高校に進学させたいと考えている。そのため、進学のために重要な英語力を小中学生の時から英語力を高めるために、子どもに図書を与えたいと思っているが、貧困のためその余裕はない。 <p>(カ) これまでの事業の成果・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当団体は、移動図書館車による学校巡回活動を支援し、小学生が図書に接する機会を増やすことによって、識字力や読解力が向上させる活動に取り組んできた。こうし成果が認められ、2012年南ア初等教育省発行の「初等教育図書要綱」において、移動図書館車の巡回活動の有用性が正式に謳われた。 ・日本NGO連携無償資金協力により、2010年度12台、2012年度8台、2014年6台の合計26台の移動図書館車を南アに送付し、全9州の教育庁に寄贈した。 <p>移動図書館車の訪問の際、教師は同乗の司書士より授業での図書活用の指導を受ける。訪問先の学校から、「子ども達が積極的に本を読むことで、英語の読解力の向上に役立っている。また、教師の読解力も高められ、子供たちに良い影響を与えている」という評価を受けている。</p>
(3) 事業内容	<p>(ア) 日本全国の自治体より2台の中古移動図書館車を収集する</p> <p>(イ) 安全運行を持続させる為に、輸出前の車両点検整備を行う。</p> <p>(ウ) 海上運送(自動車船)にて、南ア・ダーバン港へ移動図書館車を送付する。</p> <p>(エ) 南ア・ダーバン港で通関後、西ケープ州(1台)、および、NPO・Heron Bridge(ハウテン州)(1台)に移動図書館車を引渡す。</p> <p>(オ) 車両引渡後、西ケープ州教育庁、および、NPO・Heron Bridgeが車両登録から保管・運行・必要人員採用・図書購入など日常的な運行管理を行う。現地のSAPESI-南アが業務支援を行う。</p> <p>(カ) 西ケープ州。車両登録に約3カ月、そして、車両塗装に約1カ月の日程が必要。今回の1台は、西ケープ州、Overberg(オーバーバーグ)地区の代替車として寄贈するので、スムーズな運行開始が予定される。</p> <p>(キ)NPO・Heron Bridge(ハウテン州)。ヨハネスブルグ北部最大スラ</p>

	<p>ム地区の託児所を巡回する。他団体の古い図書館車で図書の貸出出張サービスの試験的運行を開始しており、その結果を踏まえ、本格的な巡回活動を行う。</p> <p>(カ) 裨益人口。移動図書館車の学校と託児所巡回数が増え、教師と子ども達が、図書に触れ、読む機会が増えるようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西ケープ州 (1 台)。40 校, 12,000 人 ・NPO・Heron Bridge (ハウテン州) 35 の託児所 1,750 人
(4) 持続発展性	<p>当団体と姉妹団体である「SAPESI-南ア」と連携のもと、各州の教育庁と協力して、移動図書館車事業の拡充と改善を行っている。</p> <p>(ア) 事業活動訪問を通じて、通年モニタリングを実施する。</p> <p>(イ) 整備面では、在南アの日本の自動車メーカーの協力により、技術的な支援や特別車両整備をこれまで通り行う。</p> <p>(ウ) 優れた実践例を評価分析し、他の活動拠点に伝え、情報の共有と学び合いにより、改善活動をこれまで通り行う。</p> <p>(エ) ECD (幼児教育) への図書館車の寄与の実証実験を行える</p>
(5) 期待される成果と成果を測る指標	<p>《期待される成果》</p> <p>図書館車巡回の学校数の拡大を行い、図書館車運行システムや図書サービスを改善し、生徒の識字率・読解力の向上に寄与する。</p> <p>《成果を測る指標》</p> <p>(ア) 基礎教育省・各州教育庁との協同</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本来、図書館車の図書の貸出し実績と授業テスト (英語習得率など) を比較し、効果測定すべきであるが、全国一斉学力試験が教員組合の反対で中止になっており、授業テストが難しい状況にあるが、成果測定は、Sapesi、基礎教育省と 9 州の教育庁の図書担当者との意思疎通と協同が重要となる。基礎教育省が州の図書責任者を Pretoria (プレトリア) 本省に招請し 3 ヶ月毎に図書定期会議を行っており、Sapesi が唯一の外部団体の定期メンバーとして参加し、図書館車運営の改善、および成果について協議している。(注 3) <p>(注 4)</p> <p>(イ) 西ケープ州。</p> <p>今回寄贈する図書館車について、図書を通じた授業の理解度や質の向上についての教師のアンケートを実施する。また、Sapesi の担当者が図書館車巡回に同行して、学校訪問をし、教師への面談インタビュー調査を行い、効果測定を行う。</p> <p>(ウ) NPO・Heron Bridge</p> <p>託児所への図書館車運行は初めてであり、幼児教育における実験的な試みとなる。Heron Bridge は、ヨハネスブルグ近郊にあり、Sapesi-南アのオフィスとも近いので、Sapesi の担当者が訪問し、Heron Bridge の協力を得て、インタビュー調査やアンケート調査を行い、図書を通じた理解度の向上について、効果測定を行う。</p>